

学部・講義：幼児や保育者の姿、保育の現場を思い描きながら 自らの考えを深める

幼児教育・青井倫子

1. 授業の概要

幼稚園免許状の「領域及び保育内容の指導法」に関する選択科目（一種：必修、二種：選択必修）である。幼年教育サブコース及び保育士養成コースの学生においては必修科目である。授業の内容は、(1)幼稚園教育要領改定の骨子、(2)幼児教育の方法及び領域の捉え方、(3)領域「人間関係」導入の背景と意義、(4)幼児をとりまく人間関係の特質と機能、(5)幼児の仲間意識発達のすじ道、(6)人と関わる力を育む保育のあり方である。

コロナ対策のため従来使用している教室が使用できず、さらに履修者数に見合った教室の確保もできず、大講義室での開講となった。

2. 受講学生 35名

2回生:33名、3回生:1名、4回生:1名

3. 授業の工夫

(1)受講生の3分の2は、幼児教育の基礎知識や、幼児と関わった経験、保育現場を見学した経験などがなかったため、具体的な幼児の姿や保育現場をイメージしながら授業を理解できるような配慮を心がけた（ビデオ視聴、保育者と幼児のやりとりを再現、青井が地域貢献や研究上記録した事例をプリントで配布、等）。

(2)学生が自らの意見や考えを持ちながら理解を深めていけるよう、発問-応答のやりとりを多く取り入れた。

(3)青井が幼児を演じ、学生に保育者として対応させ、それに対してコメントや解説を与える方法も多く取り入れた。

ただ、双方向のやりとりや、学生と授業者による役割演技を通した実践指導などにおいて、また、換気と広さによる寒さという点において、大講義室は大変不適な環境であった。

4. 授業評価の方法と結果

14回目の授業終了時にアンケートを配布し、自宅で記入の上、最終授業日に持参してもらった(記名/無記名は自由)。回収率:89%

5:たいへんそう思う(非常によい)

4:ややそう思う(よい)

3:どちらともいえない(ふつう)

2:あまりそう思わない(あまりよくない)

1:まったくそう思わない(よくない)

テーマ・目的は明確だったか	4.5
話し方は明確・聞き取りやすかったか	4.7
重要なことを強調したか	4.8
プリントに沿った授業は理解を助けたか	4.9
ビデオ視聴は授業の理解を助けたか	4.7
授業への熱意が感じられたか	4.7
内容・レベルは適切だったか	4.8
考えが培われたり得るものがあつたか	4.7
学問をする雰囲気が保たれていたか	4.7
教職に就くうえで有益だったか	4.8

全体的に例年より0.1~0.2ポイント低い結果となった。大講義室という環境が影響したと思われる。

5. 学生たちの感想から

パワポを使用せず書込み式プリントで行なった授業は「順序立っており全体像や流れが明確、要点が分かりやすい」など質問項目においても自由記述においても高評価であった。事例を多く紹介したことも「学んだ内容と実際の子どもの様子を結びつけて考えることができ、理解の助けになった」という感想が多かった。また、「先に学生の意見や考えを尋ねてから解説をすることが多く、主体的に考え、学ぶことができた」という感想もあった。